

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）



PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
〔PCT規則43の2.1〕

出願人代理人

廣田 雅紀

様

あて名

〒 107-0052

東京都港区赤坂二丁目8番5号
若林ビル3階

発送日
(日.月.年)

15. 3. 2005

出願人又は代理人
の書類記号

2004C2278

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2004/019340

国際出願日

(日.月.年) 24. 12. 2004

優先日

(日.月.年) 26. 12. 2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl' C12Q1/68 // G01N33/48, C12N15/00

出願人 (氏名又は名称)

プリマハム株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☒ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

24. 02. 2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

森井 隆信

4 B

9455

電話番号 03-3581-1101 内線 3448

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☒ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☒ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☒ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第Ⅴ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1 - 18	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (I S)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1 - 18	
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1 - 18	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

文献1：田栗利紹等，マルチプレックスPCRを用いた食中毒起因細菌の一括検出方法，長崎県衛生公害研究所報，2003年11月，平成14年度 第48号，第43－56頁

文献2：BRASHER C. W. et al., Detection of Microbial Pathogens in Shellfish with Multiplex PCR., Curr. Microbiol., August 1998, Vol. 37, No. 2, pages 101-107

発明の背景技術として本願明細書の段落番号[0004]には記載されていない非特許文献である上記文献1には、食品由来病原菌18種を同時に検出する新しい方法をマルチプレックスPCRを用いて開発したことが記載されている。検出対象菌として病原性大腸菌O157、サルモネラ菌、リステリアモノサイトゲニシス等が挙げられている。当該方法は迅速、且つ簡便で包括的であり、有用性の高いものであることが示されたとも記載されている。

これも発明の背景技術として本願明細書の段落番号[0004]には記載されていない非特許文献である上記文献2にも、食中毒の原因菌であるサルモネラ菌、大腸菌等を高感度、迅速に検出する方法を開発したことが記載されている。当該方法とは、各々の細菌に対する特定の遺伝子5種に対するオリゴヌクレオイド・プライマを用いて一度のPCRにより5種の標的遺伝子の増幅を行うものであり、通常の培養法による検出に比べ高感度、迅速であり病原性細菌の監視に適用できる旨の示唆もなされている。

これら文献1及び2の記載に鑑み、DNAの抽出工程には常法を組み合わせれば、本願の請求の範囲1乃至18に記載された食品中の微生物の多重検出方法の発明は、当該技術分野の専門家であれば容易に想到しうるものであり、その効果も格別のものではない。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書(PCT規則43の2.1及び70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
JP 2005-34121 A 「E, X」	10. 02. 2005	15. 07. 2003	

2. 書面による開示以外の開示(PCT規則43の2.1及び70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)